



京都 YWCA

5 2017

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

<親・子育て支援活動委員会> ～親と子に寄り添い続けて～ 子どもたちの未来の笑顔のために

親と子の育ちを応援

京都 YWCA では設立以来、女性と子どもの人権が守られる社会を目指して活動を続けてきました。「子育て支援」という言葉が一般的に使われ始めた1997年に「子どもが楽しみ 親が育つひととき」をコンセプトとする「親と子のリズム遊び」や「『絵本の世界』講座」を開始しました。「親と子のリズム遊び」はピアノの演奏に合わせて0～3歳児と親と一緒にハイハイしたり、跳んだり、スキップしたりと子どもの成長をたどる動きをします。動作ができることを目標とせず、一人ひとり異なる子どもの成長を受け止め、参加者同士が繋がることができ、親が気軽に講師や保育サポーターに相談できるような居場所を目指しています。

「『絵本の世界』講座」は親子で絵本の楽しさを学べる講座であり、その受講者から文庫設立の声が挙がり、2001年に親子ライブラリーを開設しました。2006年には、子どもの言葉と発達に心配のある親のための「親のだんわしつ」がスタートしました。これらのプログラムでは参加者が運営に関わることができ、社会と隔絶しがちな子育て中の親にとって能動的に力を発揮する場となりました。母親としてプログラムに参加したことがきっかけで、その後 YWCA の活動を担っている人が大勢います。



エプロンシアターに見入る
「親と子のリズムあそび」参加者

心と体を豊かに育もう

2010年にプレキンダーガーデン「ここ♪から」が、未就園児と親を対象に、心と体を豊かにすることを目的として始めました。中でもマクロビオティック料理講座は人気があり、家族の健康の元となる食への関心の高さが伺えます。2012年からは従来のプログラムに「ここ♪から」を加え、新たに「親・子育て支援活動委員会」として運営することになりました。

近年、虐待や子どもの貧困が社会問題化しています。核家族や一人親家庭の増加、地域社会の脆弱化が子育ての孤立化につながり、溢れる情報に翻弄される親も多い現状です。当委員会では、孤独な子育てにならないように居場所を提供し、子どももそれぞれにその人らしく育ち、互いに育ちあうことを応援したいと考えています。孤立し悩んでいる親に働きかけることは難しいですが、上記の他にもライブ演奏で盛り上がる「あきまつり」や子育て学習会、絵本かふえなど多様な企画を通じて、私たちと繋がるきっかけになればと活動しています。

子どもの笑顔が輝き続ける未来のために

今年度からは、親・子育て支援活動委員会の下で、これまで小学生に長期休暇中の居場所を提供してきた「ガジュマルの樹」も運営していくことになりました。子どもの育ちに寄り添えるよう、ボランティアと力を合わせて進めていきます。

子どもたちが育った先、日本は平和を享受しているでしょうか？そんな不安から、小学生対象の「子どもと平和」プログラムや「お母さんのための平和学」講座を実施してきました。子育てに追われていても、憲法改正への流れなどに、疑問や不安、あるいは怒りを感じる人も少なくありません。そんな母親、女性の気持ちに応え、共に考える機会として、5月12日に女性のための平和学「We have 憲法 We have いのち～憲法を通して子どもの未来を考えませんか～」を開催します。子どもの笑顔が輝き続ける未来のために、ご一緒に一歩踏み出しませんか？

(平野富希)

ごあいさつ

新しい年の新しい活動に寄せて

2017年度ミッション推進活動運営委員会 会長 別所加恵



明るい陽射しにつつまれ 2017 年度がスタートしました。今日も京都 YWCA には、春の野に咲く花のような笑顔が溢れています。

公益財団法人として「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」を目指した京都 YWCA の新事業開始は、新しい人の流れと一層の活気を生みだしてきましたが、一方で今までにない重い課題を私たちに与えたように思います。昨年度運営委員会では、課題評価と課題解決に向けて協議が続けられてきました。第 95 回定期会員集会では、持続可能な活動基盤を維持していくために重要なファンドレイジングに焦点が当てられました。会員一人ひとりの活動を守るために京都 YWCA 全体を皆で支えていくこと、私たちのファンドレイジングには自分達の活動への誇りや社会への発信という意味合いも含まれていることを確認・共有しました。その想いは会員活動の委員会再編という形にも涵養され、2017 年度は「平和・環境活動委員会」「親・子育て支援活動委員会」「多文化共生委員会」「ファンドレイジング委員会」の 4 つの委員会で活動することになります。

変革の年に、経験の浅い私に会長という役割が与えられ、戸惑いと不安と緊張とで胸がいっぱいです。しかし、変革には試行錯誤がつきものです。新しい組織の中で、新しい役割を担い、仲間と共に考えながら、迷いながら、チャレンジすれば良いのではないかと思います。

春の野には様々な花が、それぞれの姿で咲いています。豊かな土壌があれば、どんな花も美しく咲くことができます。一人ひとりの会員がそれぞれの花を咲かせるために、京都 YWCA を豊かなものにしていければと思います。そのことが私たちのめざす社会を創っていく原動力になるものと信じています。

「京都 YWCA がめざすもの 2017」

- ・女性や子どもの人権が守られる社会
- ・多様性を尊重し異なる文化や背景を持つ人々と共に生きる社会
- ・あらゆる暴力を否定する社会
- ・「核」のない持続可能な地球環境

シリーズ 若者からの発信 ⑥

今回の発信者は、学生時代から京都 YWCA で会員として活動に参加し、現在職員として働く堀部碧さんです。

「私の中のミソジニー」と「内なる天皇制」に抗する

私の中のミソジニー

私は学生時代や YWCA での活動を通じて、人権が保障されない境遇にある様々な人々と出会ってきました。日本という先進国で「食べていける」私は、この世界において幸運な存在であると感じます。しかしこの社会に暮らしていると、日々様々な形で「生きづらいなあ」と思うことがあります。

私を含む女性たちの「生きづらさ」の背景にあるのがミソジニー（女性嫌悪）という考え方です。と言うと、女性が被害者で男性が蔑視する側という構造を思い浮かべる方も多いと思いますが、女性自身がミソジニーを持っているなど感じる場面は多々あります。

例えば、性的な嫌がらせを受けた女性に「それくらい笑って受け流す器量がないと世の中渡っていけないよ」と思ってしまうのは男性だけに限りません。また「容姿が整った女性」に価値があると感じ、自分の顔や体型を嫌悪するのも、ミソジニーの一つの表れだと思っています。

内なる天皇制

私が働く YWCA は、女性が主体となってすべての人々の人権が守られる社会を創ることを目指す運動体です。YWCA の一人ひとりが自分の行動の責任者として動き、他者の共感を得ながら「YWCA 運動」を創っていきます。

一方、法人である京都 YWCA も含め、大きな組織は手続きの都合上、特定の「責任者」を必要とします。「責任者」の指示でやっているのだから自分に責任はないと考える——私の活動仲間の一人はこれを「内なる天皇制」と言います——のは楽です。しかし「責任者」が人を駒のように利用し、その命を使い捨てにしてきた歴史を私たちは知っているはずで

他人にだけ責任があるという楽な考えを持たずに、自分の考えや行動が自分自身や他者を傷つけているかもしれないと考えながら、自分の行動の責任者として生きることは、時に困難を伴います。しかし一人ひとりがそのように生きて初めて、自分自身を含むすべての人たちの権利が守られる社会は実現するのではないかと、思っています。

(堀部碧)

平和委員会 カフェ・フリーデン 「どうしてこんなにしんどいの？ イマドキ労働の疑問」

3月25日、YWCAのカフェで「どうしてこんなにしんどいの？ イマドキ労働の疑問」を開催しました。話題提供者は、YWCA会員の御前麻里さんです。ブラック企業、サービス残業の問題、ジェンダー視点からの労働問題、やりがい搾取についての説明の後、手作りのスイーツをいただきながら、参加者が2つのグループに分かれて交流しました。自分や子どもの職場にまつわる活発な意見が出て、あっという間に2時間が経ちました。

「高度経済成長」の働けば稼げる時代と、「バブル」の売り手市場の時代、そして「失われた20年」のワーキングプアの時代では、仕事についての捉え方が違うように感じました。

かつては会社が社員を育てるものでしたが、今はその道を外れて、その場限りの間に合わせの派遣労働者に頼り、社員を財産だと思わず、人をコマ扱いにし、使い捨てにしているという声が多くありました。

こうした話を聞いて「あゝ野麦峠」の映画を思い出しました。女工さんの労働問題、背景にある社会問題は、今の時代では形を変えています。すべて人権問題につながっていると感じました。制度ではなく、人の心の問題なのかもしれません。

荷物をたたきつける佐川急便の従業員の姿がインターネットに流れました。消費者はサービスを受けて当たり前と思いがちですが、ワンクリックで受けられるそのサービスのために労働者たちの労働環境は悪

化しているかもしれません。自分の暮らしを見直してみる必要があるのではないかという意見も出ました。

私の働く会社は組合があり、不当な労働条件や改善点について声をあげることができる環境があります。まずは身近なところ、私の場合は職場から変えていくことが、巡り巡って大きな問題（原発や基地問題など）を解決していくのではないかと思います。私以外が職場なのではなく、私も職場の一人ですから。

この会への参加はこれからの自分のワークライフバランスを考えるきっかけになり、いい時間を過ごせました。

(松田千治)



参加者どうして意見交換

福島プロジェクト 「京都で進学を考えよう」プログラムを終えて

3月30日～4月2日の4日間、京都YWCAの「福島プロジェクト」は保養プログラム「京都で進学を考えよう」を福島市在住の中学生6人を迎えて実施しました。「保養」は、短期間でも放射能の不安が少ない所で過ごすことで、心身のリフレッシュにつながると言われています。保養の機会を提供しつつ、将来の進路を考えるきっかけにもなれどと企画しました。参加者には事前に訪問したい大学や高校を訊き、今回は、同志社高校・大学、京都大学環境科学センター、洛南高校の教員・学生のみなさんのご協力をいただきました。京都の名所観光も織り交ぜながらの3泊4日でした。

本プログラム実施と時を同じくして、東日本大震災東京電力福島第一原発事故に関していくつかの報道がありました。一つは、政府が3万2千人を対象に、大幅な避難指示解除（福島県の4つの自治体の一部で解除）をしたというものです。事故当初と比べ避難区域は3分の1になりました。政府は、住宅の支援や除染などの関与を徐々に減らす方針です。避難している住民の多くは、生活基盤が避難先に移ってしまったり、放射能への不安が高かったりして故郷に帰りたくても帰れない状況にあります。地元からは、元の姿に戻せるどころか、町を残すことができるかどうか、という危機感が募る声が聞こえてきます。また、政府の本音に沿ったとも思える自主避難者への復興大臣の「自己責任」という心無い発言に、無情さと悔しさ、怒りなど入り混じった感情が溢れてくるのは私だけでしょうか。

現在もレベル7の、依然原発事故の収束とは程遠い状況であり、一度放射能で汚染されてしまった大地や海は、もう元へは決して戻らないという複雑な思いを抱えながら過ごした子どもたちとの時間でした。

最終日には、参加してくれた中学生たちを家族の元へ送り届け、無事プログラムを終えることができました。

食材を提供いただいた「使い捨て時代を考える会」やご協力いただいた皆様に感謝します。

(弘中奈都子)



参加者らと京都大学を見学

今後のプログラム

女性のための平和学
We have憲法、We haveいのち
～憲法を通して子どもの未来を考えませんか～

憲法と私たちの生活との関わりについてお話を聞く機会をもちます。その後、普段感じている疑問や印象に残ったことを、お茶を飲みながらお話しませんか。(本紙1面参照)

- 日時: 2017年5月12日(金) 10:30~12:00
参加費: 500円/人 ※お子さんも一緒にどうぞ
場所: 京都YWCAホール
ゲスト: 神戸YWCA平和活動部
申込み: 要
対象: 女性
主催: 京都YWCA親・子育て支援活動委員会

あじさいバザール ～共に生きる世界を～

- 日時: 2017年6月3日(土) 10:00~14:00
場所: 京都YWCA
入場料: 100円
主催: 京都YWCAファンレイジング委員会
たくさんの皆さまのご来場をお待ちしています。

公開講座「共にいける地域社会づくり」
～「からしだね」の実践からみる、
精神障がい者にとっての生きづらさ～

- 日時: 2017年6月10日(土) 13:30~17:30
場所: 京都YWCA
参加費: 一般1,500円、学生500円(茶菓つき)
講師: 坂岡隆司(社会福祉法人ミッションからしだね理事長)
定員: 30名
申込み: 要
共催: 公益財団法人 京都YWCA
公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー
関西セミナーハウス活動センター



ご寄付ありがとうございました。

2017年2月1日から3月31日
寄付者一覧(敬称略、順不同)

一般寄付

高橋正子、安田順子、織田雪江、日本キリスト教団平安教会

各指定寄付

*メンテナンス募金

北村保子、上村愈巳子、大島博子、赤尾陽子、筒井奈都子、森律子、井原圭子、小西多美江、山本知恵、有田孝子、荒垣加津子、辻野茂子、神岡秀治、佐野千枝子、森川和恵、小室京子、清水義、御前明美、坪野えり子、平野富希、高島照子、井上依子、匿名、(株)田中工務店

*運営委員会

木戸さやか、定期会員集会有志

*福島プロジェクト

菊地サリーナ、荒垣加津子、木戸さやか、日本キリスト教団伏見教会

*親・子育て支援委員会

親子ライブラリー有志、親・子育て支援活動委員会有志

*APT

北村保子、安藤いづみ、張善花、坂和優、安藤敬子、杉山知子、石田法子、水嶋美栄、林律、青木信雄、リンパヤラヤ スプラーニー、北垣由民子、朴沙羅、同志社女子大学宗教部、多文化共育プログラム有志、APT 有志

*国際委員会

小寺敬子、池上信子、国際委員会有志

*平和委員会

神門佐千子、御前明美、木戸さやか、円城順子、神原喜久恵(ブクラへ)

*YWCA ショップ委員会

下野光子

*うららかふえ運営委員会

宮武美知子、御前明美、島田徳子、澤村のみ子、島崎直美、宮尾瑠奈、野田弥生、三木晶子、加藤ゆかり、山口菜月

*自立援助ホーム「カルーナ」(寄付、後援会費)

齋藤佳津子、日本キリスト教団室町教会、日本キリスト教団紫野教会女性部

*自立援助ホーム

「カルーナ」教育奨励金

寺本眞紀、クラウドファンディングサービス READYFOR を通じた寄付者の皆様

*あじさい寮

安藤いづみ

*賛助費

中井和子、長谷邦彦、小嶋清見、魚木アサ、白根睦久、中村信博

手作りのぱんやさん

キートス

北欧 フィンランドのパンをご家庭に・・・

京都市中京区壬生坊城町33 グランデール朱雀002

TEL・FAX: 075-842-0585

URL: http://www.5a.biglobe.ne.jp/~kitos/

3・4月/理事会報告

- 2017年度から会員活動を4つの委員会に整理。
生涯教育事業部: 5歳~小学生対象「えいごであそぼうスプリングイベント」実施(3/18)。
あじさい寮に新規に入居した留学生向けオリエンテーション実施(3/18)。
カナダのプリティッシュ・コロンビア州暴力終結機構の講師によるDV相談員研修実施(3/23-24)。
2016年度決算処理と2017年度予算を審議・決定。
小学生のための春休みアウトプログラム「ガジュマルの樹」を実施(3/27-3/30)。
三市YWCA合同合宿(7/15-16)参加者向けの「大人の修学旅行@京都」実施予定。

KYOTO YWCA No.538

2017年5月号(5月1日発行)

発行人 上村愈巳子

発行所 公益財団法人京都YWCA

京都市上京区室町通水上ル

電話 (075)431-0351 FAX (075)431-0352

e-mail office@kyoto.ywca.or.jp

URL http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替 01080-9-1566

口座名義 (公財)京都YWCA

定価 50円